



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

長野西ロータリークラブ



例会 毎週金曜日 12:30~13:30 ホテル国際 2 1
 事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016
 e-mail:nwrc@sweet.ocn.ne.jp

会長/清水 光朗 幹事/小山 浩太郎 クラブ会報委員長/轟 修平
 SAA/村田 弘志 副 SAA/西沢 徹

第1347回例会 2015年（平成27年）7月17日（金）

世界へのプレゼントになろう
 Be a Gift to the World

会長挨拶

清水光朗会長



皆様、こんにちは。本日は長野ロータリークラブの菊池大先輩をビジターとしてお迎えしての例会となります。皆様にとっても愉しんで頂ける例会とした

と思います。

さて、今回のご挨拶は先のGWに家庭内に溜まったガス抜きを兼ねて行ったアテネへの旅行について申し述べたいと思います。先月の半ば頃から昨今、何かと経済面で新聞紙上を賑わせているギリシャ・アテネでございますが、私どもが訪れた際には街には世界各地からの観光客で溢れかえっており、街ゆく人々の顔にもその様な経済危機を胎んでいるなどと伺わせる素振りを視ることも出来ませんでした。

むしろ、私の心配としてはギリシャ料理が口に合うだろうかという点にあったのですが、昔はいざ知らず街中のタベルナ（地中海方面での大衆食堂の総称）ではトマト、茄子、鯛などの料理を堪能して参りました。そんな訳で家庭内のガス抜きも出来、有意義な旅として過ごさせて頂きました。

幹事報告

小山浩太郎幹事

- ・17日~19日 長野女子高等学校白梅祭
 18日は創立90周年式典があり会長・幹事とで出席し、19日には小池青少年奉仕委員長が行きます。小池委員長には、インターアクトの活動日にも参加していただいています。
- ・第13回日韓親善会議のご案内 9月4日 東京において開催。綿貫隆夫パストガバナーは日韓親善委員会地区委員であられ、出席されます。
- ・第27回ライラ（ロータリー青少年指導者養成プログラム）が9月26~27日に伊那ロータリークラブホストにより伊那プリンスホテルにて開催されます。参加対象は20~30歳くらいの青年。一般公募と、各ロータリークラブから将来を嘱望する青年を推薦くださいとのこと。推薦者がありましたらお申し出ください。8月17日まで。
- ・北信第1グループのガバナー補佐として伊東義次さん、ガバナー補佐幹事の高井 亘さん、ガバナー補佐副幹事の瀧澤 聡さんが、15日には須坂五岳ロータリークラブ、本日は須坂ロータリークラブへガバナー補佐事前訪問例会として行かれています。

7 / 24 本日のプログラム

ゲスト卓話 佐藤 洋子さん
 (上山田温泉あさひ倶楽部オーナー)
 江戸文化「浮世絵」

ビジター

菊池 栄助さん
(長野 RC)



模範的な患者さんで日頃から健康維持に務められ、皆さんにも見習って欲しいです。(岡田先生談)

- ・岡田啓治さん☆本日卓話致します。
- ・柄澤重登さん☆長野県医師会副会長の岡田先生を歓迎します。先日、山田友雄先生とのお別れ会でご一緒に実行委員を綿貫先生と3人で務めさせて頂くご縁がありました。本日は有難うございます。
- ・小林敏生さん☆岡田先生。お世話様です。
- ・粕尾正康さん☆本年度プログラム委員長を仰せつかりました。1年間よろしくお祈いします。



例会運営委員長を務めさせて頂きます。4/16～7/14は善光寺の法要で例会を欠席あるいは、開始ぎりぎりでの出席となっていました。

- ・若麻績信昭さん☆岡田先生、母と従兄弟がお世話になっています。

・合計 32,000円 ・累計 97,460円

講師紹介 粕尾正康プログラム委員長

プログラム委員長初仕事で本日は会員の岡田先生に卓話をお願いしました。私の主治医でもあります。お忙しい所有難うございます。先生は早稲田大学政経学部卒業後、日本ビクターに就職されましたが、医師を目指して聖マリアンナ医科大学を卒業され、昭和57年に奥様のご実家である岡田内科を引き継がれて今日に至っています。また、北長池で老健施設、西鶴賀では特養を経営され高齢者の医療、介護、在宅医療、訪問介護などの分野に取り組んでいらっしゃいます。現在は長野県医師会副会長も務められています。

例会案内

7月31日 ゲスト卓話 ペイジ・ノリスさん
長野市国際室職員
「日本文化について」

会員卓話 岡田啓治さん

「げんきながいき信州プロジェクト」の目指すところ
～健康寿命延伸のために～



長野県は男女とも平均寿命が日本一(平成22年調査)です。最近注目されている概念に「健康寿命」があります。平均寿命と健康寿命の間を「不健康期間」と言い、何らかの理由で介護や看護が必要な要介護状態となり、自力で日常生活を送ることが困難になる期間です。「げんきながいき信州プロジェクト」とは、健康寿命を延ばし、不健康期間を短縮するという長野県の進める運動で、長野県医師会も様々な取り組みを行っています。健康寿命を縮める原因は加齢による老衰、脳血管疾患、認知症などがありますが、長野県では認知症と脳血管疾患が全国平均より高くなっています。認知症については、国家レベルで様々な研究が行われております。脳血管疾患については、危険因子の一つに高血圧症があり、医師会としても高血圧対策を健康寿命延伸の重要な課題と位置付けて、活動を展開しています。

もう一点、これから我が国の進む高齢化は世界でも例がなく、社会保障や健康維持のモデルはありません。医療政策、特に多死社会・超高齢社会を迎えて『看取りの場所』の確保が問題になります。人の死亡は、医師等が診断します。御岳山の災害では、心肺停止状態という報道が頻繁に聞かれましたが、これは死亡診断が行われていない状態です。多くの皆さんは自宅での看取りを希望しますが、訪問診療や往診が適切に行われていなければ、警察による検視・検案が必要となります。安心して人生の最期を迎えるためには、日頃から信頼出来るかかりつけ医を持ち、人生のエンディングについて話すことも、時には必要なことと思います。